



来年度から全国の小中学校では移行期間を経て「総合的な学習の時間」が全面実施されます。その課題の選択、内容、方法については様々なものがあり、多岐にわたっています。京都府亀岡市の畑野小学校では6年生の「総合的な学習の時間」の一環として、当協会学校事業部とテレビ電話を介して、T/Tによる国際理解の課題について授業を実施しました。

政府の高度情報通信ネットワーク社会推進戦略（通称e-Japan戦略）によると、わが国はすべての国民が情報通信技術（IT）を積極的に活用し、環境を整備し、……5年以内に世界最先端のIT国家を目指す、とあります。その中で、学校教育の情報化は重要な地位を占めています。平成13年3月31日現在、公立の小中高等学校、盲、ろう、養護学校など38,995校の内、31,638校がインターネット接続されており、接続率は81.3%になります。

こうした状況下、畑野小学校は文部科学省の「学校の情報化推進のためのネットワーク活用方法研究開発事業」指定を受け、ISDN回線を利用したテレビ電話会議を通じて、授業の在り方、システム運用の在り方等の研究開発を展開している学校です。同じ地球に生きている「人」を理解し、自分にできる国際協力を考え、そして、これから21世紀を支えていく子どもたちが、人々とのかかわりを考えたり、自分たちの暮らしを見直したりできるおとなになって欲しいとの願いから、6年生55名の授業をユニセフ協会と一緒に進めたいとの依頼が学校事業部にありました。京都と東京という距離の壁を乗り越えるべく、テレビ電話機というメディアを活用してT/Tによる授業を行うことになりました。

畑野小学校では6年生の担任である中江ひとみ先生と内藤和子先生が、マイクを持ってビデオカメラの前で授業の進行を担った

り授業で話し合った内容のメモをホワイトボードに書いたりして、子どもたちが理解しやすいようにアレンジしました。その陰では情報加配担当の安藤茂樹先生が、システムの面からこの授業を支えます。ユニセフ協会では学校事業部の職員がテレビ電話機のカメラの前に座って対応しました。

第一回目のテレビ電話授業は2001年10月31日（水）13時40分～14時30分にかけて実施され、子どもたちが関心を持った、難民、病気、環境等について学習をしました。（詳しくは畑野小学校のホームページ <http://www.el.city.kameoka.kyoto.jp/hatano/> をご覧ください。）最初緊張していた子どもたちも、話が進むにつれ慣れてきたようで、笑顔も見られるようになってきました。こうして無事第一回目は終了し、子どもたちの反応は上々で、楽しく

よく理解できたという声が多かったようです。2001年12月までに4回のテレビ電話授業を終えることができ、2002年の2月中旬までにさらに3回、計7回の内容となっています。学習が終わってからも自分たちの生き方について考え、相手の気持ちを大切に、困っている人に対して自分にできることで貢献する子どもに育ててほしいと願っています。

テレビ電話機によるT/Tの試みはユニセフ協会にとって画期的なものでした。「総合的な学習の時間」の本格実施を間近にして、ユニセフのことを知りたい、あるいはどういう形でユニセフを取り込むことができるか、学校まで向いて説明をして欲しいというリクエストが全国から来ていますが、物理的な距離のためにその要請に応えることは容易ではありませんでした。しかし、このテレビ電話機を使った方法なら全国何処でも授業をすることができるため、遠方とのやり取りが難しかった学校にとっては、外部との接触を持つ好機になる方法かもしれません。



畑野小学校の
テレビ電話授業風景



（財）日本ユニセフ協会学校事業部は2002年度に向けて、T/Tを充実させたいと考えています。当事業部とのT/Tをお考えの学校は下記までご連絡下さい。

（財）日本ユニセフ協会 学校事業部メールアドレス：se-jcu@unicef.or.jp